

群 教 セ	G14 - 02
	平 15.216 集

「チャレンジ・ウィーク殖蓮」の作成と活用

－ チャレンジ・ウィークにおける事前学習支援 －

特別研修員 瀬山 卓穂（伊勢崎市立殖蓮中学校）

《研究の概要》

本研究では、中学校第2学年で本校が取り組んでいるチャレンジ・ウィークの事前学習において、生徒がチャレンジ・ウィークに対する理解を深め、一人一人が自ら課題を設定できるようになるための教材を作成した。教材は、殖蓮地区の様々な情報や昨年のチャレンジ・ウィークの様子を取り入れ、Web形式にした。また、地域を更に広く意識できるように、伊勢崎市の情報をまとめた資料も載せた。

【キーワード：総合的な学習 - 中 チャレンジ・ウィーク 勤労・奉仕・地域とのふれあい 課題設定】

主題設定の理由

群馬県では、生徒自らが生きる力を身に付けられるよう、自分の将来について夢と希望と情熱をもって考え様々な体験活動に取り組む機会を設定するため「ぐんまチャレンジ・ウィーク」推進事業が設けられている。また、本事業の実施をとおして、学校・家庭・地域社会の連携を一層深め、地域の日常そのものが高い教育力を持つものであることを改めて認識する機会とし、もって、地域の子どもを地域で育てる機運の醸成に資することをねらいとしている。

そこで、本校では、「勤労・奉仕・地域とのふれあい」をテーマとしたチャレンジ・ウィークにおいて、5日間の体験的な活動を取り入れた課題解決的な学習に取り組んでいる。この学習のねらいには、「勤労の尊さの感得」「生徒達から考え出された奉仕活動により感謝の気持ちを養う」「地域の芸能や文化の体験」という3つのねらいがある。

それらを踏まえて、その学習内容として、「地域を知る」「地域に愛着を持つ」「地域と共に生きる」という学習過程を盛り込み、主体的に行動できる資質や豊かな心情を身に付けさせていきたいと考えている。この学習は、昨年度からスタートし、すべてが初めてのことだったので教員、生徒共にいろいろと模索しながら学習活動が進んだ。特に、事前学習である課題設定の場面においては非常に苦労をした。どんな勤労・奉仕体験ができるのか、地域の何を利用してどのように地域の人とふれあえるのかなど、学校にある地域の情報量が少なく、うまく整理されていなかったのではなかなか課題設定ができなかった。また、この課題設定が5日間の体験的な活動の充実やこの学習のねらいを達成する上で非常に重要な学習過程であったと考えられる。

そこで、事前学習である地域を知る過程において、地域の情報を多く取り入れたWeb形式の事前学習支援資料集「チャレンジ・ウィーク殖蓮」を作成し、活用することによって様々な情報を生徒が効果的に収集し、収集した情報をもとに課題を設定し、課題解決的な学習を進めていくことにした。そのことにより、今まで知らなかった地域のすばらしさに気がつき、地域のために自分ができること（勤労・奉仕）や自分の地域の文化・伝統で体験できること（地域とのふれあい）を発見できる。そして、実際に5日間の体験的な活動をとおして地域に愛着を持つことができる。そこでは、自ら考えた勤労活動・奉仕活動や地域に伝わる芸能や文化の体験、地域に住む大人とのふれあいをとおして地域の一員としての役割や責任を自覚し、地域と共に生きている実感へとつなげていくことができる。更に、自分たちが学んだ地域の情報を「チャレ

ンジ・ウィーク殖蓮」に蓄積することで次年度へと受け継がれる。

このように、チャレンジ・ウィークにおける「勤労・奉仕・地域とのふれあい」の事前学習において「チャレンジ・ウィーク殖蓮」を活用することによって、生徒自らが課題を持ち、見通しを立てた上でその課題の解決方法をみつけていく能力の育成が図れると考え、本主題を設定した。

研究のねらい

「勤労・奉仕・地域とのふれあい」をテーマとしたチャレンジ・ウィークにおいて、生徒一人一人が課題を設定し見通しを立てて体験的な活動に取り組むことができる事前学習支援資料集を作成し、その有効性を明らかにする。

研究の見通し

「勤労・奉仕・地域とのふれあい」をテーマとしたチャレンジ・ウィークの事前学習において、Web形式の事前学習支援資料集「チャレンジ・ウィーク殖蓮」を活用して情報を収集することによって、生徒の意欲が高まり、生徒一人一人が自ら課題を設定し、見通しを立てて課題を解決していくことができるであろう。

研究の内容

1 「チャレンジ・ウィーク殖蓮」の概要

(1) 基本的な考え方

ア 殖蓮地区やチャレンジ・ウィークについて理解を深めるための工夫

難しい文章表記や長い文章による説明は、生徒にとって内容を捉えにくい。そこで、本資料集では、説明をできるだけ簡潔に短い文で示し概要を捉えやすいようにした。また、静止画をなるべくたくさん載せ、生徒の興味がありそうな情報を盛り込むようにした。例えば、地区にあるお店や遺跡、寺や神社、名所など、近くに住んでいながらも詳しい知識を持っていないものを多く選んで載せるようにした。そのことによって、新たな知識を得て自分の地域に改めて愛着を持つようになるであろうと考えたからである。また、昨年度のチャレンジ・ウィークの様子が主要な活動を町ごとにプレゼンテーションソフトを利用して見られるようにした。このような工夫によって、自分の地域やこれから学習に取り組むチャレンジ・ウィークについての理解が深まり、新しい知識を身に付けられるように考えた。

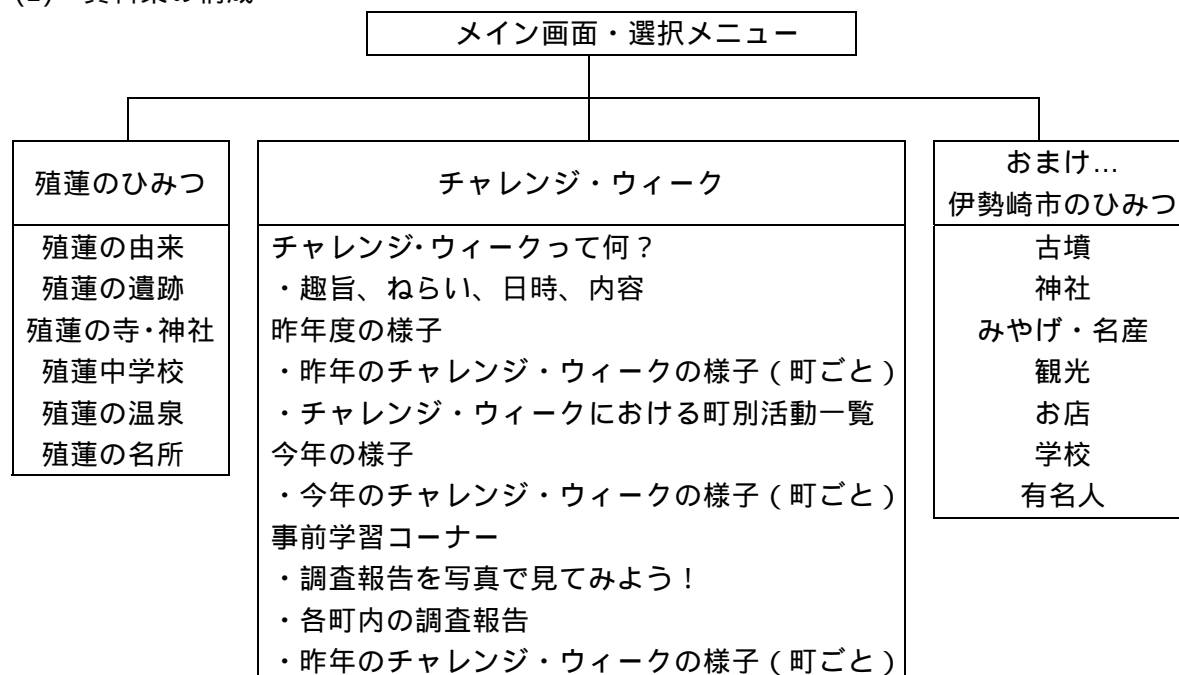
イ 課題設定を容易にするための工夫

昨年度のチャレンジ・ウィークは初めての試みで、どのような活動をするのかははっきりとした見通しがつかなかった。そのため、体験活動における課題意識の希薄さが見られ活動がスムーズに行かず、充実した活動にならなかった一面があった。そこで、本資料集には昨年度の様子をまとめた静止画や動画を入れ、活動の内容がわかるようにした。また、生徒は現地調査を行い、報告書としてまとめた。現地調査の報告書は、他の生徒が見たときにわかりやすくするため、文字の色や大きさを変えたり、現地の様子がよくわかる画像を取り入れたりして作成した。その報告書は町ごとに見られるように本資料集に取り入れた。それを生徒が見ることによって、5日間の体験的な活動について生徒一人一人が課題意識を持ち、見通しを立てた上で取り組むことができる。

ウ 発展的なものにするための工夫

課題設定の場面のみに役立つばかりではなく、学習のまとめとして行われる町ごとの発表会や次年度へと発展的に利用することができるようなページを設けた。町ごとに分かれたページに生徒や各分担の教員が事前学習のワークシートや活動中の様子を蓄積することによって、チャレンジ・ウィークまとめ発表会でそのまま使うことができる。また、次年度の課題設定の場面においてより充実した情報が提供でき、活動内容の広がりやチャレンジ・ウィークに対する理解の深まりによって生徒が意欲的に課題意識を持った活動になる。更に、蓄積された情報を本校の Web ページによって地域へ発信できるようにした。

(2) 資料集の構成



2 「チャレンジ・ウィーク殖蓮」の内容

(1) メイン画面・選択メニュー

チャレンジ・ウィークの課題設定場面などの事前学習において参考資料とする「殖蓮のひみつ」「チャレンジ・ウィーク」と発展的学習の参考資料として扱う「伊勢崎市のひみつ」を簡単な内容説明を含めて親しみやすく見やすいようにした（図1）。

(2) 殖蓮のひみつ

生徒が殖蓮地区の情報を項目ごとに選択できるように「殖蓮の由来」「殖蓮の遺跡（図2）」「殖蓮の寺・神社」「殖蓮中学校」「殖蓮の温泉」「殖蓮のお店」「殖蓮の名所」という項目に分けて示した。それらは、生徒にとって親しみやすい静止画や簡略化した説明を加えてわかりやすくした。また、必要に応じて詳しい情報が収集できるリンクを設けた。

(3) チャレンジ・ウィーク

図3は、昨年度に行われたチャレンジ・ウィーク

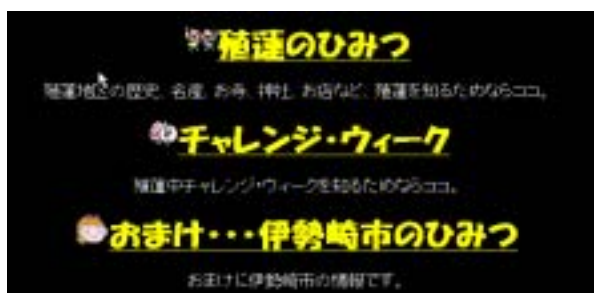


図1 メイン画面・選択メニュー



図2 殖蓮のひみつ「殖蓮の遺跡」

ークの町ごとの様子へリンクしているページである。それぞれの内容は、静止画や動画、プレゼンテーションソフトを利用して5日間の活動を整理してまとめた。課題設定の場面において生徒への有効な支援となるようになるべく簡潔で明瞭にした。

また、事前学習コーナーを設けて、現地調査で生徒が撮影した清掃しなければならない場所の静止画、それをまとめた現地調査報告を町ごとに分類して見られるようにまとめた。事前学習コーナーは、見たり読んだりすることにより、生徒一人一人が課題を設定する際の参考資料となる（図4）。

チャレンジ・ウィークまとめ発表会においての活用や次年度への引き継ぎのため、今年度の活動について町ごとに活動報告や静止画などを随時、容易に蓄積できるようにした。

(4) 伊勢崎市のひみつ

殖蓮地区を更に視野を広げて考えてみようという興味・関心を持たせる手立てとして伊勢崎市の様々な情報が含まれる「伊勢崎市のひみつ」というページを載せた。このことで、本研究での地域は学校区域としたが、今後の地域学習を発展させて進めていく上での参考資料として活用することができる（図5）。



図3 チャレンジ・ウィーク「昨年のチャレンジ・ウィーク」



図4 チャレンジ・ウィーク「事前学習コーナー」



図5 伊勢崎市のひみつ「みやげ」

3 実践の結果と考察

(1) 学習指導計画

- 対象 伊勢崎市立殖蓮中学校 第2学年 鹿島町生徒 12名（男子7名 女子5名）
- 教科等 総合的な学習の時間 単元名「チャレンジ・ウィーク」
- ねらい

Web 形式にまとめた各町の現地調査報告や昨年度の活動の様子を見て、自分たちの町の体験活動をよりよいものにするための課題を一人一人が設定することができる。

○指導計画（全 45 時間）

時間	過程・形態	学習活動・内容	支援（ は評価）
1	ガイダンス （学年）	○チャレンジ・ウィークにおける意義・内容を理解する。 ○学習の進め方を理解する。	○大まかなスケジュールの提示により見通しづくりの支援をする。 ○参考のため、具体的にどのような活動があるか提示する。
8 本時 5 / 8	課題設定 （町別）	○5日間の活動内容を決める。 ○活動場所へ現地調査に行く。 ○自己の課題を設定する（本時）。 ○町の課題を設定する。 ○具体的な活動計画を立案、課題解決の方策を考える。	○資料集を活用し、課題を容易に設定できるように支援をする。 - 様々な情報や資料を活用して、チャレンジ・ウィークがよりよい活動になるような課題を自ら設定できたか。 ○町の課題を焦点化しやすくするために個人の課題を整理しておく。 - 町の実態にあった研究計画を立てることができたか。
30	課題解決 （町別）	○活動計画を元にして5日間の活動を行う。	- 自ら課題を見つけ、改善点を見つけながら見通しを立てて解決しようとしている。 - 設定した課題解決の方法を自分たちで考え、活動の中に生かそうとしている。
6	課題解決のまとめ （町別、学年）	○活動の反省と整理 ○発表準備 ○まとめ発表会	○まとめは、生徒が見やすく、わかりやすいものにするために、プレゼンテーションソフトを利用する。 - 研究課題を解決できたか。

(2) 実践（平成 15 年 10 月 7 日実施）

本教材をチャレンジ・ウィークにおける事前学習で活用した。生徒が、事前に班に分かれて体験活動として清掃を行う場所の調査に行き、デジタルカメラで撮影し、気が付いたことをワークシートにまとめた。まとめたものは教師が本資料集の中に町ごとに分類し、整理しておいた。そして、本時（5 時間目）では本教材を活用して、5 日間の体験的活動における自己の課題を設定した。その授業の中ではワークシートとアンケートを記入させ、成果を検証した。検証授業の学習の流れは、以下のようであった。

学習活動	支援及び留意点	時間	評価項目（方法）
1 前回の学習を振り返る。	○本時の内容に関係するので、前回にあった現地調査を生徒が初めに振り返られるようにする。	3分	生徒が本時の課題意識を持つ。
2 本時の学習のめあてをつかむ。	○本時はチャレンジ・ウィークにおける体験的な活動をよりよいものにするための課題を設定する学習であることを意識できるように指導する。	3分	本時の活動を把握することができる。
3 資料集を見る。	○生徒が各町の現地調査報告や昨年度の活動の様子を知るために資料集を活用する。 ・見通しを持って見られるように資料集の見方を教師が初めに示範する。 ・課題設定のための資料としてどんなものがよいかを必要に応じて助言する。	19分	各町内の現地調査報告を課題意識を持ちながら見ている。
4 課題を設定する。	○課題設定できない生徒には資料集のどこを見ればよいのか助言する。 ・生徒の課題意識を高め、次時に町の課題をまとめやすくするために課題をワークシートに記入させる。 ・この学習活動で、チャレンジ・ウィークにおける活動がよりよいものになることを気づかせる。 ・課題設定が終わった生徒は、資料集内の様々なサイトを見て地域の広がりを意識させるようにする。	20分	自分たちの町の活動をよりよいものにするための課題を設定することができる。（ワークシート）
5 本時のまとめをし、アンケートを記入する。	○次時からの学習計画を確認し、本時のまとめとする。	5分	本時のまとめができる。

(3) 授業実践の結果と考察

授業実践の結果については授業の中で記入したワークシートとアンケートを中心に考察することとする。まずは、「早くチャレンジ・ウィークを行いたいのか。」との問いには10人（表1）の生徒が早く行いたいとの回答を得た。また、感想の中に昨年度のチャレンジ・ウィークの町ごとの活動の様子に関する意見が多く見られた。プレゼンテーションソフトを利用して昨年度に行われた5日間の活動をまとめたのでどういう活動をするのか明確になり、自分の町以外の

活動の様子も興味を持って見ていた。静止画や動画を利用した昨年度の様子は生徒の活動への

表1 生徒のアンケート結果より

生徒に対する質問内容	鹿島町 12人中	割合 (%)
早くチャレンジ・ウィークを行いたいのか？	10	83.3
資料集の中で楽しかったのは？（複数回答可）		
殖蓮のひみつ	11	91.6
昨年度のチャレンジ・ウィークの様子	12	100
町別の課題一覧	9	75
伊勢崎市のひみつ	11	91.6
チャレンジ・ウィークへ向けて自分の課題は決められたか？	12	100
チャレンジ・ウィークで自分なりに自己の課題を解決できたか？	12	100

意欲を掻き立てるのに非常に有効だったと考える。さらに、チャレンジ・ウィークにおける一人一人の課題を考えさせたと、「ゲートボール場の端の方のゴミを拾う。」「○○公園の雑草を取る。」「公民館の障子を直す。」「○○公園の石を拾う。」「陸橋の下や用水路沿いのゴミを拾う。」などという具体的な課題が出てきた。このことから、生徒のチャレンジ・ウィークにおける自らの課題が設定できたと判断できる。そして、目的意識を持って課題解決に臨む姿勢が見られた。これは5日間の体験的活動の意欲的な取り組みの要因となり充実した活動となった（図6、図7）。

次に、様々な情報が収集できる「殖蓮のひみつ」「伊勢崎市のひみつ」は生徒にとっては興味深かったようである。楽しかったと回答した生徒がそれぞれ11人いた（表1）。実際の活動の様子を見ても、集中して食い入るように見る姿が見られた。「殖蓮のひみつ」では、近くに住んでいながらも意外に知らなかったことや近所にある神社や寺などの解説を読み、新しい知識が身に付き、改めて地域に愛着を持ったのではないかと考える。「伊勢崎市のひみつ」では、地域が更に拡大し、地域の広がり意識しつつ様々な伊勢崎市の情報を身に付けていた。この二つは、身近な地域を知ると共に地域の枠をより広げ、伊勢崎市にまで目を向けた学習活動となった。

その他の意見として、「チャレンジ・ウィークのことがよくわかった。」「勤労・奉仕体験以外の活動についても調査してみたい。」「早く調査した場所の掃除をしてきれいにしたい。」など、学習の発展が期待できる意見も多く見られた。一方でこれからの課題につながる意見もあった。「動画を増やしてほしい。」「文章ばかりのところは難しいので写真を載せたりしてほしい。」「もっとたくさんのお店を紹介してほしい。」「もっとたくさんの方があったほうがいい。」というものである。



図6 公民館の清掃



図7 地域の道路清掃

チャレンジ・ウィーク後の感想文の中からは、「地域の方たちと協力してチャレンジ・ウィークが見事に成功した。」「疲れたけれど、○○公園がきれいになりとても気持ちがよかった。他の汚い場所もきれいにしたい。」「地域の人達と様々な交流をし、とても楽しかった。チャレンジ・ウィーク以外の活動でもまた交流ができればいいと思います。」などとチャレンジ・ウィークに対する前向きな気持ちがみられ、主体的にチャレンジ・ウィークに取り組むことができた現れたといえる。

最後に、昨年度まで行われてきた事前学習と比較してみると、本教材を活用した授業は、生徒のチャレンジ・ウィークに対する理解もより深まり、自分なりの課題を持って体験活動ができたという点において、有効だったと考える。また、事前学習コーナーにおいて、昨年度の様子や事前現地調査報告を載せることによって、理解を深め、実際の体験活動においても自分なりの課題を持って取り組めたのではないかと考える。

研究のまとめと今後の課題

本研究では Web 形式にし、静止画や動画を利用したことが生徒の学習意欲を高める上で有効であったと考えられる。事前に実際の体験活動を行う場所に現地調査へ行きデジタルカメラで撮影してきたものに気が付いたことや課題を加えて現地調査報告としてまとめたことや、昨年度のチャレンジ・ウィークの様子を町ごとに整理してまとめたものは生徒に「早くチャレンジ・ウィークを行いたい」という意欲を芽生えさせた。生徒の感想の中に「チャレンジ・ウィークのことがよくわかった。」「勤労・奉仕体験以外の活動についても調査してみたい。」「早く調査した場所の掃除をしてきれいにしたい。」という意見などはその意欲の高まりと判断できるであろう。集中して食い入るように資料集を見ている生徒の姿が印象深かった。課題を解決するための具体的な方策を考えたことも見通しを持って課題解決をする上で有効であったと考える。

また、地域について殖蓮地区だけに限定せず、伊勢崎市まで地域を広げて生徒が興味のあるような情報を収集できたことは、地域に対する視野を更に広げ、地域学習を発展させて進めていく上で有効であったと考える。

今後の課題としては、さらに地域の情報の収集を継続し、地域の情報を充実させる必要がある。そして、今年度に行われたチャレンジ・ウィークの静止画や動画を整理する。わかりやすい資料集に改善していくことなどが挙げられる。

< 参考・引用文献 >

- ・ 研究報告書 第 209 集 群馬県総合教育センター（2002）
- ・ 『殖蓮の歴史』 伊勢崎市立殖蓮中学校